

公共建築賞

生活施設部門

(中部地区)

亀山市立関中学校



校舎 2 棟の間の中庭
関宿の街道のように西に向かって緩やかに延びる中庭。向こうに見える小高い丘は鈴鹿国定公園の一部。関宿の道は「関の山車（やま）」の語源となったように細い道であるが、宿場中央の要の位置にある地藏院の前は少し広がっており、関中学でも学習の要となるメディアセンターの前は広がっている



多目的ホール：生徒全員が集うことができるスペース。窓の向こうに「街道（中庭）」が見える

関宿は、参勤交代や伊勢参りの人々で賑わいを見せた東海道五十三次に位置する、江戸から数えて47番目の宿場町である。旧東海道の多くの宿場町から往事の風情が失われるなか、全長1.8kmにわたり200軒あまりの町屋が残されており、昭和59年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

関中学校の建設にあたり、設計プロポーザルのテーマとして求めた「関中学校の学校像」に対し、関宿の町並みが商業化されず生活の一部となっていることを背景に、学校も同様に生活の一部と捉え、奥行きのある町並みの中に置くような形で設計されている。また、街道として表現された中庭を中心に生徒等が互いの行動を伺うこと

所在地	三重県亀山市関町 1863
敷地面積 (m ²)	31,084.44
建築面積 (m ²)	4,572.95
延床面積 (m ²)	5,524.23
構造／階数	W 造、一部 S 造／地上 2 階
事業者	亀山市
設計者	株式会社建築事務所
施工者	堀田建設株式会社
竣工年月	2011 (平成 23) 年 3 月
総工事費	1,083 百万円

の出来るしつらえとされており、街道（中庭）を挟んで配置される多目的ホールやワークスペースなどが生徒の集会・歓談・給食のほか、地域住民や隣接校を含めた活動などにも有効に機能している。

また、特別支援教室や障がい児童室、クールダウン室、父兄相談室の配置など学校側の要望についても適切に設計に反映されている。このほか、校舎の構造体や内装には多くの木材（地場産材）が活用されており、新校舎への移転後の不登校、問題行動の減少など、木造建築が生徒の情操に対しても良い影響を与えるほか、地域の人々の自慢の学校にもなっていることが紹介されている。

(尾崎俊文委員)

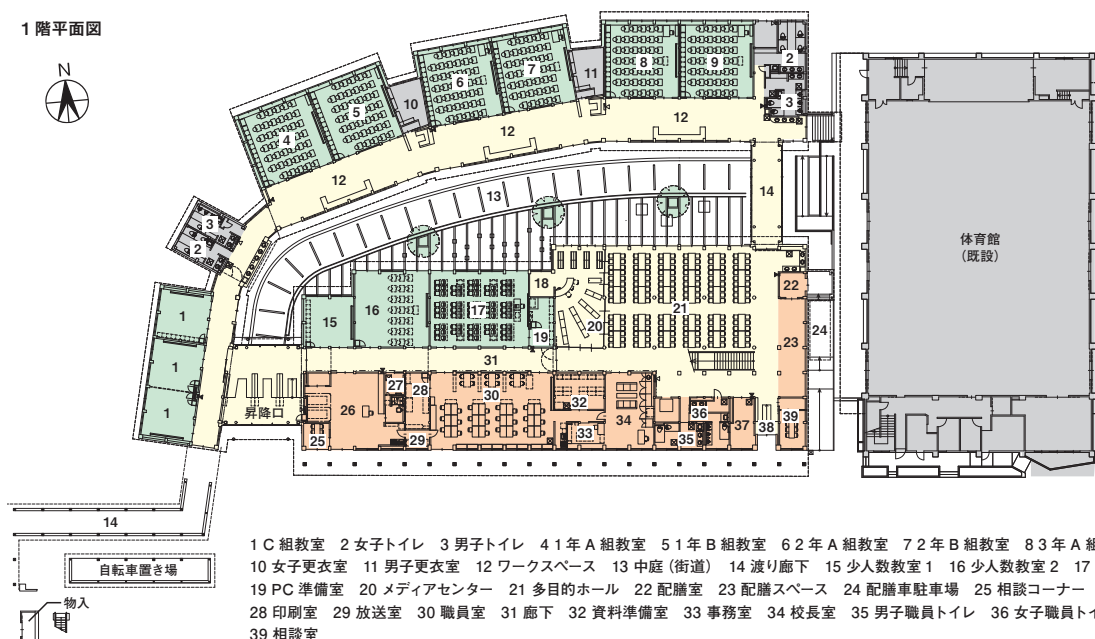


街道に向かうアプローチ：昇降口前
「街道」の入り口となる昇降口、その向こうに続く「街道」が見える



厨子の窓から光が差し込む教室
教室に、「厨子」を模した南の高窓と北側の窓から常に安定して光が差し込む

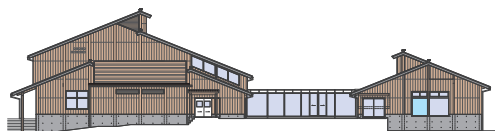
1 階平面図



北棟 南側立面図



南棟 南側立面図



北・南棟 東側立面図

豊かな自然と歴史的町並みに抱かれた学校

東海道47番目の宿場町「関宿」の町並みの特徴が、そのまま生かされた中庭で過ごす、語らいのひととき。杉丸太8本の柱が象徴的な多目的ホールに集い、交流を深める日々。とかく希薄な人間関係が取り沙汰される現代社会にあって、そんなネガティブな課題を忘れさせてくれる空間が広がる、個性的な佇まいの校舎となっています。建築当時の生徒たちが、思いを込めて刻んだ一文字がデザインされた軒瓦が見守る中、夏休みには、「中庭トワイライトコンサート」と称した吹奏楽のイベントを開催しています。在校生や卒業生、保護者の方々のみならず、多くの地域の方々が訪れ、真夏の夜の調べを堪能していただいています。ここで学び、未来に向けて旅立つ生徒たちには、人を愛し、母校を愛し、そして故郷を愛する心が育まれているものと信じてやみません。

(中川博文・亀山市立関中学校校長)